

## 2 研究の実際

### (1) 小学校における外国語教育の方向性

文部科学省は、中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」(平成 27 年 8 月)を踏まえ、外国語ワーキンググループを設置し、外国語活動・外国語の学習指導要領改訂の方向性を検討しました。その後、中央教育審議会において、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成 28 年 12 月 21 日)を取りまとめました。

本研究では、教科化を見据え、「育成すべき思考力・判断力・表現力等」に着目して、外国語活動の授業づくりについて考えます。そこで、現時点で中央教育審議会により示されている、小学校における外国語教育の方向性について、「思考力・判断力・表現力等」に焦点を当てて、まとめました。

※本研究のポイントとなる箇所に、黄色の色付けをしています。

#### ア 現行の学習指導要領の成果と課題

- グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。
- 現行の学習指導要領は、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力の育成を目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを総合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な取組を通じて充実が図られてきた。
- 一方で、指導改善による成果は認められるものの、学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じるといった状況が見られている。

中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』 平成 28 年 12 月 p.193

中央教育審議会は、これらの成果と課題<sup>(1)</sup>を踏まえ、外国語教育における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を更に育成することを目標として改善を図りました。

## イ 小・中・高等学校を通じて育成を目指す資質・能力の整理

中央教育審議会の答申では、外国語活動・外国語科において育成を目指す三つの資質・能力を整理<sup>(2)</sup>しています。この中で、小学校に関する部分のみ抜粋して掲載します（表 1）。

表 1 外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語 活動 小学校	○外国語への慣れ親しみ ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること 外国語を聞いたり、話したりすること	○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力	○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて言語の大切さや、文化の違いに気付く ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、 <b>相手意識を持って</b> 外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
外国語 小学校	○言葉の仕組みへの気付き（音、単語、語順など） ○聞くことに関する知識・技能 話すことに関する知識・技能 外国語を読んだり、書いたりすること	○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力	○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、 <b>相手意識を持って</b> 外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

中央教育審議会 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成 28 年 8 月 資料 2 より抜粋  
網掛は筆者による

○外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、**実際のコミュニケーションにおいて活用**され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、**資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要**である。

中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成 28 年 12 月 p.194  
網掛は筆者による

実際のコミュニケーションにおいて、三つの資質・能力を関連させながら育成していくことの必要性<sup>(3)</sup>が明らかにされています。

## ウ 外国語活動・外国語教育における「見方・考え方」と目標の在り方

中央教育審議会の「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」によると、『見方・考え方』とは、児童生徒が、各教科等の学習において、様々な知識や力を身に付けていく過程の中で、“どのような視点で物事を捉え、どのように思考していくのか”という、様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点や、思考の枠組みである<sup>(4)</sup>とあります。外国語活動・外国語教育における「見方・考え方」<sup>(5)</sup>が次のように示されました。

○外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」と整理する。

中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成 28 年 12 月 p.196

「見方・考え方」を働かせながら、外国語教育において育成を目指す資質・能力を育成するため、小学校学習指導要領（案）において、外国語活動<sup>(6)</sup>及び外国語科<sup>(7)</sup>の目標が以下のように示されています。

### 外国語活動（小学校中学年）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

文部科学省 『小学校学習指導要領（案）』 平成 29 年 2 月 p.154 網掛は筆者による

### 外国語科（小学校高学年）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

文部科学省 『小学校学習指導要領（案）』 平成 29 年 2 月 p.137 網掛は筆者による

また、中央教育審議会の答申では、外国語教育においては、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、資質・能力の育成を目指す力について、国際的な基準である CEFR などを参考に、**段階的に実現する指標形式の目標**を設定しました<sup>(8)</sup>。

※CEFR とは、Common European Framework of Reference for Languages の略称です。語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格として開発されたものです。

○国が定める領域別の目標については、外国語で聞いたり読んだりして得た知識や情報、考えなどを的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることで育成される「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」について、外国語教育の目標に沿って、高等学校卒業時において求められる資質・能力を明確にした上で、それぞれの学校段階等において設定することが大切である。このため、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の五つの領域ごとに、小学校中学年段階から児童生徒の発達段階に応じて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成する目標を設定するとともに、これらの複数を組み合わせて効果的に活用する統合的な言語活動を一層重視した目標とする。

中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について  
(答申)』 平成 28 年 12 月 p.195

「外国語」等における小・中・高等学校を通じた**国の指標形式の目標（イメージ）**において、CEFR のレベルは、「Pre-A1」「A1」「A2」「B1」「B2」の5つのレベルに分けられています。その中で、「小学校中学年・外国語活動＋小学校高学年・外国語」は「Pre-A1」レベル、「小学校高学年・外国語＋中学校・外国語」は、「A1」レベルとされています。小学校に関する情報の中から、本研究に関連する「聞くこと」(表2)、「話すこと（やりとり）」(表3)、「話すこと（発表）」(表4)の領域を抜粋して掲載します<sup>(9)</sup>。

表 2 「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標（イメージ）  
－聞くこと－

聞くこと		
CEFR 自己評価表	Pre-A 1	A 1
想定される 学校種・教科、 科目等	小学校中学年・外国語活動 ＋ 小学校高学年・外国語	小学校高学年・外国語 ＋ 中学校・外国語
国の指標形式 の主な目標	<input type="checkbox"/> アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかがわかるようにする。 <input type="checkbox"/> 挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 <input type="checkbox"/> ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表すごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。	<input type="checkbox"/> 挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 <input type="checkbox"/> 日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 <input type="checkbox"/> ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。
授業における 主な言語活動 (言語の使用 場面の例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アルファベットの発音の識別</li> <li>○ 挨拶や短いごく簡単な指示の理解と反応</li> <li>○ 自分に関することや身近で具体的な事物を表すごく簡単な語句や文の聞き取り など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶や簡単な指示の理解と反応</li> <li>○ 日常生活における基本的な情報の理解</li> <li>○ 身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明における必要な情報の聞き取り など</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルファベットの発音を聞いて、文字と結び付ける。</li> <li>・ 挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて、それらに応じる。</li> <li>・ 身近な人物、身の回りの事物などに関するごく簡単な英語を聞いて、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶や簡単な指示を聞いて、適切に応じる。</li> <li>・ 日付、曜日、時刻、単位を表す表現など、日常生活において必要となる基本的な情報を聞いて理解する。</li> <li>・ 友人や家族、学校生活など、身の回りの事柄に関して平易な英語で話されるごく短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る。</li> </ul>

中央教育審議会 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成 28 年 8 月 資料 5 より抜粋

表 3 「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標（イメージ）  
－話すこと（やりとり）－

話すこと（やりとり）		
CEFR 自己評価表	Pre-A 1	A 1
想定される 学校種・教科、 科目等	小学校中学年・外国語活動 ＋ 小学校高学年・外国語	小学校高学年・外国語 ＋ 中学校・外国語
国の指標形式 の主な目標	<input type="checkbox"/> 挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。 <input type="checkbox"/> 相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など）があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。	<input type="checkbox"/> 相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。 <input type="checkbox"/> 相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など）があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。
授業における 主な言語活動 （言語の使用 場面の例）	<input type="radio"/> 挨拶 <input type="radio"/> ごく簡単な質疑応答 など ・初対面の人や知り合いと簡単な挨拶を交わす。 ・ごく短い簡単な指示に応じる。 ・自分に関するごく簡単な質問に答えたり、相手についてごく簡単な質問をしたりする。	<input type="radio"/> 簡単な表現を用いた質疑応答 <input type="radio"/> 簡単な情報交換 など ・ごく身近な話題について、簡単な質問をしたり簡単な質問に答えたりする。 ・ごく身近な話題について、自分の思いや自分が知っていることなどを伝え合う。

中央教育審議会 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成 28 年 8 月 資料 5 より抜粋

表 4 「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標（イメージ）  
－話すこと（発表）－

話すこと（発表）		
CEFR 自己評価表	Pre-A 1	A 1
		どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
想定される 学校種・教科、 科目等	小学校中学年・外国語活動 ＋ 小学校高学年・外国語	小学校高学年・外国語 ＋ 中学校・外国語
国の指標形式 の主な目標	<input type="checkbox"/> 定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。 <input type="checkbox"/> 自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。	<input type="checkbox"/> 簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 <input type="checkbox"/> ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。
授業における 主な言語活動 (言語の使用 場面の例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な挨拶</li> <li>○簡単な語句や文を用いた自分に関する情報など</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初対面の人や知り合いに簡単な挨拶をする。</li> <li>・自分の名前、年齢、好き・嫌い、興味のあることなどを、簡単な語句や文を用いて話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な語句や文を用いた自己紹介</li> <li>○日常生活における基本的な情報</li> <li>○ごく身近な事柄についての短い簡単なスピーチ など</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な語句や文を用いて、自分の趣味や特技などを含めた自己紹介をする。</li> <li>・時刻、日時、場所など、日常生活における基本的な情報を伝える。</li> <li>・ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちを含めて短い簡単なスピーチをする。</li> </ul>

中央教育審議会 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成 28 年 8 月 資料 5 より抜粋

## エ 資質・能力を育成する学習過程についての考え方

育成を目指す三つの資質・能力を身に付けられるように、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学習過程に改善していくことが求められています<sup>(10)</sup>。

- 外国語教育における学習過程では、児童生徒が、
  - ㊦ 設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解する、
  - ㊧ 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、
  - ㊨ 対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、
  - ㊩ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う
 というプロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていったりすることが大切になる。
- 言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、児童生徒が言語活動の目的や、使用の場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な語彙や文法事項などの言語材料を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。このような言語活動を通じて、児童生徒の学びに向かう力・人間性等を育成することが重要である。

中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について  
(答申)』 平成 28 年 12 月 p. 197 網掛は筆者による

## オ 「主体的・対話的で深い学び」の実現

外国語教育においては、質の高い学びを実現するために、以下のような活動<sup>(11)</sup>を設定することが重要であると示しています。

- 小学校では、その目標を達成するために、身近で簡単なことについて聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力が求められる。そのためには、児童が興味関心のある題材について聞いたり話したりする必然性のある活動の設定が重要である。児童同士、または児童と指導者との豊富なやりとりを通して、どのようにしたら自分の思いが相手に伝わるか、相手の思いが理解できるか、思考を働かせることで伝え合う力を高めることにつながる。また、新しい情報を得たり、心が動いたりすることで、言葉の有用性や、言葉でやりとりをすることの大切さを体験的に理解することにつながる。

中央教育審議会 『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成 28 年 8 月 p. 20 網掛は筆者による

## カ 学習評価

小学校高学年としての外国語教育における「観点別学習状況の評価」について、以下のような評価方法<sup>(12)</sup>について示しています。

- 必要な資質・能力を育成するための学びの過程を通じて、筆記テストのみならず、インタビュー（面接）、スピーチ、簡単な語句や文を書くこと等のパフォーマンス評価や活動の観察等、多様な評価方法から、その場面における児童の学習状況を的確に評価できる方法を選択して評価することが重要である。

中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について  
(答申)』 平成 28 年 12 月 p. 196



《引用文献》

(1) (3) (5) (8) (10) (12) 中央教育審議会

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 p.193、p.194、p.196、p.195、p.197、p.196

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)

(2) (4) (9) (11) 中央教育審議会

『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成28年8月 資料2、  
p. 2、資料5、p.20

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377057\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377057_1_1.pdf)

(6) (7) 文部科学省 『小学校学習指導要領（案）』 平成29年2月 p.154、p.137